

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300204		
法人名	有限会社 福祉サポート仙台東		
事業所名	グループホーム憩いの園 ユニット:1階		
所在地	仙台市若林区上飯田1丁目3番31号		
自己評価作成日	平成29年11月8日	評価結果市町村受理日	

## ※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成29年12月6日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広瀬川の近くに立地し、グループホーム敷地の後方には保育園があり、日中には園児たちの声も聞こえ健やかな雰囲気にも囲まれた場所で利用者様が暮らしております。隣接の保育園とは毎年秋頃に交流させていただいており、初秋には弊社秋祭りに園児を招待し、晩秋には保育園から焼き芋会に招待をいただき利用者様と一緒に参加させていただいております。  
グループホーム憩いの園では、「笑顔あふれる家」「あなたがあなたらしく過ごせる家」「安心できるひだまりのような家」の三つを理念に掲げ、利用者様が暖かい笑顔に包まれ、その人らしく安心して暮らせる場所の提供を目指し、日々の支援にあたっています。利用者様の思いを日頃から聞き取るようにし、生活のリクエストに応えられるよう配慮しております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広瀬川近くの住宅街の中にある2階建ての開設3年目の事業所で、開設時に作成した理念を掲げ、利用者が第2の家として落ち着いて、生き生きと過ごせるよう支援している。今年度から、週1回、利用者の希望に対応して出かける機会を設けている。近隣には同法人のデイサービス・小規模多機能の事業所があり、行事などで連携している。法人の代表が地域の町内会や婦人会に加入しており、地域の住民が避難訓練や祭りに参加するなど交流を深めるように努めている。24時間対応の訪問看護師と契約している他、往診医による訪問診療、訪問歯科を利用することが出来、協力医が緊急時に対応するなど、医療連携体制が確立している。法人は、職員が有休をとりやすくするなど、働きやすい環境作りにも努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GH憩いの園）「ユニット名 1階」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングで全員で読み上げ、理念について確認を行っております。	開設時に職員が話し合って決めた理念の定着を目指して、年度末に振り返り、継続することを確認している。職員は利用者に笑顔で接し、利用者が生き生きと過ごせるように支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の買い物、町内の行事、近隣保育園との交流等、地域と関わり合いの場が持てるよう行事への参加、また、弊社開催の秋祭りに町内会、婦人会、保育園をご招待し交流を図っております。	同法人の事業所合同の秋祭りには、地域の住民や隣の保育園の園児等が参加している。また、利用者が地域の市民祭りに参加したり、保育園の芋煮会に招待されて訪問し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において利用者様の普段の暮らしぶりや認知症状への支援方法の事例について報告しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームでの活動内容を報告し、疑問点や意見をいただいております。いただいた意見をサービスに活かせるよう努めております。	町内会長、町内会会計、民生委員、地域包括職員、法人代表、職員が参加し、同法人の小規模多機能と合同で、隔月開催している。「もっと事業所のことを地域にアピールしては」との意見が出された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村で開催されている研修会には積極的に参加しております。疑問点があれば研修会や電話で確認を取り、適宜指導をいただいております。	地域包括支援センターからは研修会案内などがあり、認知症支援者マップ作成に参加するなど、連携体制がある。仙台市には必要な報告をし、指導を受け、生活保護の受給者の相談などで連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な11の項目・3つの弊害を事例を用いて研修しております。研修を通じて自身のケアのあり方について振り返る機会を設けられるように努めております。	身体拘束について研修し、自身のケアを振り返り拘束になっていないか再確認している。外出傾向を把握し、帰宅願望などが強い人には、良く話を聞いたり、家族の協力で外出してもらっている。玄関は夜間のみ施錠し、昼間はセンサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待発生の半数が自覚していないという統計表を用いながら、どんなことが虐待に当たるのかミーティングでの研修で行い、身体拘束の研修同様、自身のケアについて振り返る機会を設けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員対象の社内研修に人権擁護委員協議会を招き、権利擁護について研修をしていただきました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約につきましては、十分な理解を得られるよう丁寧にご説明させていただいております。また、契約後も不明な点がある場合は都度ご説明しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の暮らしの中での意向を支援につなげられるよう、また、ご家族面会時には職員から話しかけることを心掛け、信頼関係を築くことで話しやすい関係作りに努めております。	家族には面会時や電話で利用者の状態を伝え、意見を聞いている。玄関には「御意見箱」を設置している。運動のため階段の上り下りをさせて欲しいとの要望があり、実践している。	家族が意見や提案を出しやすい関係づくり構築をする取り組みとして、家族に利用者の様子を伝える手紙を作成することを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	隔週開催のリーダー会議にて、各ユニットリーダーからユニットの職員状況について報告を受け、意見を反映させるよう努めております。また、管理者は常にどちらかのユニットにおりますので職員と日常的に意見交換を図っております。	月1回ユニット毎のミーティングを行い、職員間でコミュニケーションをとり、意見要望を聞いている。月2回ユニットリーダー、管理者が参加するリーダー会議を行い、状況報告、課題等について話し合っている。また、管理者は、シフトのことなど個別に意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各個人の実績や経験に合わせ、労働環境を整え、ひとり一人がやりがいのある仕事ができるよう整備しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修では、管理者を講師において職員はもちろん、管理者のスキルアップも図っております。外部研修も自己啓発を促し、研修を受講できる環境を整備しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の受講を会社がバックアップする環境を整えることで、同業者交流の機会の確保に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査では、ご本人が求めている暮らし方を聴き取るよう心掛けています。ご本人の要望に事業所としてどのようなサービスを提供できるかをご本人と一緒に考えていけるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談受付時や入居前の実態調査で、当事業所への入居にどのような思いがあるかを親身になって傾聴するように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談時において、ご本人・ご家族が今何を不安に思っているかをじっくり傾聴するようにしております。当人の声を大事にしつつ、それまで利用されていたサービス事業所等からも情報提供をいただき多様なサービスを提案できるよう努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の一つの「あなたがあなたらしく過ごせる家」の考えのもと、今までの生活の役割の一端を担っていただき、生活者として一緒に歩んでいける関係作りを目指しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や担当者会議の際は、家族としてどのような暮らしをご本人に望まれているかを聴き、事業所と一緒に考えていけるよう心掛けております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所に届いた手紙や電話、面会等の交流を大切にし、ご本人のこれまでの関係が継続できるような暮らしの支援をしております。	友人や親戚が面会に来やすいように配慮し、電話を取り次ぐなどの支援をしている。近くの馴染みの美容院に、職員が同行している人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を常に把握できるよう、職員は密に情報共有を行っております。情報をもとに関わり合いの中で楽しく生活できるよう支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、随時各種相談には応じれるようにしております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中からご利用者の要望の把握に努めております。また、担当者会議でも本人・家族から直接暮らしの意向の聞き取りをしております。	利用者との日常の会話や、家族から得た情報から思いや意向を把握し、申し送りノートや介護記録に記入して共有している。本人の要望から、ラーメンを食べに出かけたり、マラソンをしたいという利用者へは運動促進のため、毎日のゴミ捨てを手伝っていただいている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族やそれまで利用していたサービス事業所から生活環境やサービス利用に関しての情報をいただき、把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各ご利用者には居室担当者を配置しており、担当者中心に現状の把握に努めております。担当者会議録・ファイルを作成し、他職員との情報共有を図っております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当・計画作成担当・管理者でモニタリング・介護計画について話し合い、担当者会議にてご家族と話し合い、確認しております。	3ヶ月毎に担当職員がアセスメントを作成し、担当者会議を開催して介護計画を見直している。見直した介護計画は面会時や電話で家族に説明し、同意を得ている。遠くの家族には郵送している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別での記録は介護記録・バイタル表・排便管理表・通院記録・看護記録等多様な記録を用い、観察・情報共有を図っております。また、それぞれの記録に気づき・報告事項を記入する事でも情報共有を図り、計画書に活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	従来のサービス以外の要望が発生した時も、その時の状況に合わせた対応を社内で検討した上で支援につなげられるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内行事の市民祭りには毎年参加させて頂いております。地域との関わりを大切にしながら楽しみのある暮らしの支援を目指しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医に継続して診てもらえることを優先し、要望に応じて往診医の紹介も行っております。	往診医がかかりつけ医の人が多。その他のかかりつけ医への受診は家族付き添いが基本だが、職員が同行する時もある。訪問看護師が週1回健康管理を行っている。訪問歯科の利用もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、週に1度訪問看護師による健康管理指導を行っております。ご利用者の状態に合わせて、常に相談し合い適切な看護、そして、受診へつなげられるよう努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院と密に連絡を取り合い、退院後も安心して暮らせるよう、また、継続して病状に応じて受診できるよう情報共有・相談を行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては、主治医の指示のもと、本人・家族・医師・事業所での相談を行っております。それぞれの立場からどのようなことを望まれるか、それに対し事業所がどう取り組めるかを十分に話し合い、良い支援につなげられるよう取り組んでおります。	「看取りに関する指針」は入居時に示し、重度化した場合に再度説明し、同意を得ている。往診医とは看取り時も連携している。訪問看護師を講師に、看取り時の心構えなどを学び、職員のメンタルケアも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人に事故委員会を設置しており、各事業所の事故委員が中心に事故発生時の対応について報告しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練の際は、全職員に災害対策について再確認させております。また、婦人防火クラブの方に参加していただき、災害発生時の協力体制についても確認を行いました。	今年度は1回、夜間想定、消防署立ち合いで避難訓練を行った。地域の婦人防火クラブメンバーが参加し、見守りや毛布での担架作りの実演等をしてもらった。広瀬川の浸水マップに基づきマニュアルを作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者の尊重とプライバシーの確保とはどういうことを指すのかを事例を挙げながらミーティングにて研修を行っております。	人権擁護委員会に依頼し、年4回に分けて職員全員が尊厳やプライバシーについて研修している。「ちょっと待って」などのスピーチロックに注意し、声がけを工夫している。呼び方は、本人の希望や家族から聞いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中の言動からご利用者の意向を汲み取り、自立支援や自己決定ができる環境の整備に努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何よりもご利用者の暮らしやすさを優先に考えております。共同生活の中でも、ひとり一人のペースに合わせた時間配分の暮らしの提供実現に取り組んでおります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服を自分で選べるよう職員が支援しております。自己選択が難しいご利用者には本人本位となるよう心掛けております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の身体状況等に応じ、準備・後片付けを職員と共同で行い、ひとり一人に役割を持っていただけるよう支援しております。	法人が委託している業者のメニューをアレンジし、敷地内の調理室で作った食事が届けられる。食材は宅配を利用し、買い物に行くこともある。職員と一緒に食べず、食事介助を行ったり休憩に充てている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は全て記録し、栄養状態の把握に努め、また、その情報を主治医・訪問看護師と共有しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っております。個人の能力に合わせ、必要に応じ、介助を行い口腔内の清潔保持に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できることを最優先で考え、個別での状況に応じた介助をしています。排泄に関しても記録を取り、情報共有を行った上で自立支援に取り組んでおります。	排泄パターンを把握し、時間や様子を見て誘導するなど、トイレでの排泄を支援している。夜間はポータブルトイレ、パッドやおむつなどを使用する人もいます。便秘対策で乳製品やせんな茶、水分を取るなどしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操を毎日行っており、運動の機会の確保に努めております。食事・水分量にも気を遣い、便秘状況に合わせ、主治医・訪問看護師とも相談しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日・時間は予め設定してありますが、その日のご利用者の体調・気分の状況に合わせて都度変更し、対応しております。入浴はご利用者に合わせ常に変更できるよう設定してあります。	週2回午前中の中の入浴が基本だが、希望で午後に入浴することもある。湯温は好みに合わせて対応している。脱衣所と浴室には床暖房があり暖かく、気温差がないよう配慮している。拒否の時はタイミングを見たり、順番を変えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設定しておらず、ご利用者の時間に合わせ就寝していただいております。また、就寝時間前の環境には特に気を配り、安眠につなげられるような支援に努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報のファイルを作成し、職員は常に閲覧できるようにしております。また、薬剤に関する疑問があった場合は主治医・訪問看護師・薬剤師に連絡を取り指導をいただいております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の今までの生活に沿えるよう配慮し、趣味や役割等、楽しみのある生活の提供に努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的な買い物もご利用者と一緒に出掛けられるよう支援しております。外出先の希望にも応えられるよう努めております。	週1回、外出の日として機会を増やし、買い物や外食を楽しんでいる。行事計画を立て、農業園芸センターや笹かま館等に出かけている。家族の協力でお墓参りに出かける人もいます。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい為、現在、金銭管理されているご利用者はありません。ご自身の能力に応じ、買い物に行った時、職員と一緒に支払いができるよう支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話があった場合はご本人につなげ、大切な時間が確保できるよう努めております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には不快にならぬよう、刺激のないよう配慮しております。また、写真や創作物を展示することで思い出の共有ができるよう配慮しております。	共用空間は広々としており、一角の事務室からは全体が見渡せる。床暖房を使用し、加湿器や空気清浄機を設置している。トイレの表示を立体的にして、見やすいように工夫している。壁には季節の飾りや行事の写真を展示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中の居場所においては特に気を遣い、ご本人の暮らしやすい環境の整備に努めております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を置くことで安心感が持てるようご本人やご家族と相談しながら配置していただいております。	ベッド、洗面台、クローゼット、エアコンが備え付けられている。室内は綺麗に整頓され、壁には写真やカレンダー、園児からの贈り物が飾られている。表札は利用者に合わせて、高さや場所を変えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の意向に合わせ、ご自身の能力を活かせるよう表示や目印を設置し、安心・安全で居心地の良い居場所の提供を目指しております。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300204		
法人名	有限会社 福祉サポート仙台東		
事業所名	グループホーム憩いの園 ユニット:2階		
所在地	仙台市若林区上飯田1丁目3番31号		
自己評価作成日	平成29年11月8日	評価結果市町村受理日	

## ※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成29年12月6日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広瀬川の近くに立地し、グループホーム敷地の後方には保育園があり、日中には園児たちの声も聞こえ健やかな雰囲気にもまれた場所で利用者様が暮らしております。隣接の保育園とは毎年秋頃に交流させていただいており、初秋には弊社秋祭りに園児を招待し、晩秋には保育園から焼き芋会に招待をいただき利用者様と一緒に参加させていただいております。  
グループホーム憩いの園では、「笑顔あふれる家」「あなたがあなたらしく過ごせる家」「安心できるひだまりのような家」の三つを理念に掲げ、利用者様が暖かい笑顔に包まれ、その人らしく安心して暮らせる場所の提供を目指し、日々の支援にあたっています。利用者様の思いを日頃から聞き取るようにし、生活のリクエストに応えられるよう配慮しております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広瀬川近くの住宅街の中にある2階建ての開設3年目の事業所で、開設時に作成した理念を掲げ、利用者が第2の家として落ち着いて、生き生きと過ごせるよう支援している。今年度から、週1回、利用者の希望に対応して出かける機会を設けている。近隣には同法人のデイサービス・小規模多機能の事業所があり、行事などで連携している。法人の代表が地域の町内会や婦人会に加入しており、地域の住民が避難訓練や祭りに参加するなど交流を深めるように努めている。24時間対応の訪問看護師と契約している他、往診医による訪問診療、訪問歯科を利用することが出来、協力医が緊急時に対応するなど、医療連携体制が確立している。法人は、職員が有休をとりやすくするなど、働きやすい環境作りに努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GH憩いの園 ）「ユニット名 2階 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングで全員で読み上げ、理念について確認を行っております。	開設時に職員が話し合って決めた理念の定着を目指して、年度末に振り返り、継続することを確認している。職員は利用者に笑顔で接し、利用者が生き生きと過ごせるように支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の買い物、町内の行事、近隣保育園との交流等、地域と関わり合いの場が持てるよう行事への参加、また、弊社開催の秋祭りに町内会、婦人会、保育園をご招待し交流を図っております。	同法人の事業所合同の秋祭りには、地域の住民や隣の保育園の園児等が参加している。また、利用者が地域の市民祭りに参加したり、保育園の芋煮会に招待されて訪問し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において利用者様の普段の暮らしぶりや認知症状への支援方法の事例について報告しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームでの活動内容を報告し、疑問点や意見をいただいております。いただいた意見をサービスに活かせるよう努めております。	町内会長、町内会会計、民生委員、地域包括職員、法人代表、職員が参加し、同法人の小規模多機能と合同で、隔月開催している。「もっと事業所のことを地域にアピールしては」との意見が出された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村で開催されている研修会には積極的に参加しております。疑問点があれば研修会や電話で確認を取り、適宜指導をいただいております。	地域包括支援センターからは研修会案内などがあり、認知症支援者マップ作成に参加するなど、連携体制がある。仙台市には必要な報告をし、指導を受け、生活保護の受給者の相談などで連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的な11の項目・3つの弊害を事例を用いて研修しております。研修を通じて自身のケアのあり方について振り返る機会を設けられるように努めております。	身体拘束について研修し、自身のケアを振り返り拘束になっていないか再確認している。外出傾向を把握し、帰宅願望などが強い人には、良く話を聞いたり、家族の協力で外出してもらっている。玄関は夜間のみ施錠し、昼間はセンサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待発生の半数が自覚していないという統計表を用いながら、どんなことが虐待に当たるのかミーティングでの研修で行い、身体拘束の研修同様、自身のケアについて振り返る機会を設けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員対象の社内研修に人権擁護委員協議会を招き、権利擁護について研修をしていただきました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約につきましては、十分な理解を得られるよう丁寧にご説明させていただいております。また、契約後も不明な点がある場合は都度ご説明しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の暮らしの中での意向を支援につなげられるよう、また、ご家族面会時には職員から話しかけることを心掛け、信頼関係を築くことで話しやすい関係作りに努めております。	家族には面会時や電話で利用者の状態を伝え、意見を聞いている。玄関には「御意見箱」を設置している。運動のため階段の上り下りをさせて欲しいとの要望があり、実践している。	家族が意見や提案を出しやすい関係づくり構築をする取り組みとして、家族に利用者の様子を伝える手紙を作成することを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	隔週開催のリーダー会議にて、各ユニットリーダーからユニットの職員状況について報告を受け、意見を反映させるよう努めております。また、管理者は常にどちらかのユニットにおりますので職員と日常的に意見交換を図っております。	月1回ユニット毎のミーティングを行い、職員間でコミュニケーションをとり、意見要望を聞いている。月2回ユニットリーダー、管理者が参加するリーダー会議を行い、状況報告、課題等について話し合っている。また、管理者は、シフトのことなど個別に意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各個人の実績や経験に合わせ、労働環境を整え、ひとり一人がやりがいのある仕事ができるよう整備しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修では、管理者を講師において職員はもちろん、管理者のスキルアップも図っております。外部研修も自己啓発を促し、研修を受講できる環境を整備しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の受講を会社がバックアップする環境を整えることで、同業者交流の機会の確保に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査では、ご本人が求めている暮らし方を聴き取るよう心掛けています。ご本人の要望に事業所としてどういうサービスを提供できるかをご本人と一緒に考えていけるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談受付時や入居前の実態調査で、当事業所への入居にどのような思いがあるかを親身になって傾聴するように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談時において、ご本人・ご家族が今何を不安に思っているかをじっくり傾聴するようにしております。当人の声を大事にしつつ、それまで利用されていたサービス事業所等からも情報提供をいただき多様なサービスを提案できるよう努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の一つの「あなたがあなたらしく過ごせる家」の考えのもと、今までの生活の役割の一端を担っていただき、生活者として一緒に歩んでいける関係作りを目指しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や担当者会議の際は、家族としてどのような暮らしをご本人に望まれているかを聴き、事業所と一緒に考えていけるよう心掛けております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所に届いた手紙や電話、面会等の交流を大切に、ご本人のこれまでの関係が継続できるような暮らしの支援をしております。	友人や親戚が面会に来やすいように配慮し、電話を取り次ぐなどの支援をしている。近くの馴染みの美容院に、職員が同行している人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を常に把握できるよう、職員は密に情報共有を行っております。情報をもとに関わり合いの中で楽しく生活できるよう支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、随時各種相談には応じれるようにしております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中からご利用者の要望の把握に努めております。また、担当者会議でも本人・家族から直接暮らしの意向の聞き取りをしております。	利用者との日常の会話や、家族から得た情報から思いや意向を把握し、申し送りノートや介護記録に記入して共有している。本人の要望から、ラーメンを食べに出かけたり、マラソンをしたいという利用者へは運動促進のため、毎日のゴミ捨てを手伝っていただいている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族やそれまで利用していたサービス事業所から生活環境やサービス利用に関しての情報をいただき、把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各ご利用者には居室担当者を配置しており、担当者中心に現状の把握に努めております。担当者会議録・ファイルを作成し、他職員との情報共有を図っております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当・計画作成担当・管理者でモニタリング・介護計画について話し合い、担当者会議にてご家族と話し合い、確認しております。	3ヶ月毎に担当職員がアセスメントを作成し、担当者会議を開催して介護計画を見直している。見直した介護計画は面会時や電話で家族に説明し、同意を得ている。遠くの家族には郵送している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別での記録は介護記録・バイタル表・排便管理表・通院記録・看護記録等多様な記録を用い、観察・情報共有を図っております。また、それぞれの記録に気づき・報告事項を記入する事でも情報共有を図り、計画書に活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	従来のサービス以外の要望が発生した時も、その時の状況に合わせた対応を社内で検討した上で支援につなげられるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内行事の市民祭りには毎年参加させて頂いております。地域との関わりを大切にしながら楽しみのある暮らしの支援を目指しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医に継続して診てもらえることを優先し、要望に応じて往診医の紹介も行っております。	往診医がかかりつけ医の人が多い。その他のかかりつけ医への受診は家族付き添いが基本だが、職員が同行する時もある。訪問看護師が週1回健康管理を行っている。訪問歯科の利用もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、週に1度訪問看護師による健康管理指導を行っております。ご利用者の状態に合わせ、常に相談し合い適切な看護、そして、受診へつなげられるよう努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院と密に連絡を取り合い、退院後も安心して暮らせるよう、また、継続して病状に応じて受診できるよう情報共有・相談を行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては、主治医の指示のもと、本人・家族・医師・事業所での相談を行っております。それぞれの立場からどのようなことを望まれるか、それに対し事業所がどう取り組めるかを十分に話し合い、良い支援につなげられるよう取り組んでおります。	「看取りに関する指針」は入居時に示し、重度化した場合に再度説明し、同意を得ている。往診医とは看取り時も連携している。訪問看護師を講師に、看取り時の心構えなどを学び、職員のメンタルケアも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人に事故委員会を設置しており、各事業所の事故委員が中心に事故発生時の対応について報告しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練の際は、全職員に災害対策について再確認させております。また、婦人防火クラブの方に参加していただき、災害発生時の協力体制についても確認を行いました。	今年度は1回、夜間想定、消防署立ち合いで避難訓練を行った。地域の婦人防火クラブメンバーが参加し、見守りや毛布での担架作りの実演等をしてもらった。広瀬川の浸水マップに基づきマニュアルを作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者の尊重とプライバシーの確保とはどういうことを指すのかを事例を挙げながらミーティングにて研修を行っております。	人権擁護委員会に依頼し、年4回に分けて職員全員が尊厳やプライバシーについて研修している。「ちょっと待って」などのスピーチロックに注意し、声がけを工夫している。呼び方は、本人の希望や家族から聞いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中の言動からご利用者の意向を汲み取り、自立支援や自己決定ができる環境の整備に努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何よりもご利用者の暮らしやすさを優先に考えております。共同生活の中でも、ひとり一人のペースに合わせた時間配分の暮らしの提供実現に取り組んでおります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服を自分で選べるよう職員が支援しております。自己選択が難しいご利用者には本人本位となるよう心掛けております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の身体状況等に応じ、準備・後片付けを職員と共同で行い、ひとり一人に役割を持っていただけるよう支援しております。	法人が委託している業者のメニューをアレンジし、敷地内の調理室で作った食事が届けられる。食材は宅配を利用し、買い物に行くこともある。職員と一緒に食わず、食事介助を行ったり休憩に充てている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は全て記録し、栄養状態の把握に努め、また、その情報を主治医・訪問看護師と共有しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っております。個人の能力に合わせ、必要に応じ、介助を行い口腔内の清潔保持に努めております。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できることを最優先で考え、個別での状況に応じた介助をしております。排泄に関しても記録を取り、情報共有を行った上で自立支援に取り組んでおります。	排泄パターンを把握し、時間や様子を見て誘導するなど、トイレでの排泄を支援している。夜間はポータブルトイレ、パッドやおむつなどを使用する人もいる。便秘対策で乳製品やせんな茶、水分を取るなどしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操を毎日行っており、運動の機会の確保に努めております。食事・水分量にも気を遣い、便秘状況に合わせ、主治医・訪問看護師とも相談しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日・時間は予め設定してありますが、その日のご利用者の体調・気分の状況に合わせて都度変更し、対応しております。入浴はご利用者に合わせ常に変更できるように設定してあります。	週2回午前中の中の入浴が基本だが、希望で午後に入浴することもある。湯温は好みに合わせて対応している。脱衣所と浴室には床暖房があり暖かく、気温差がないよう配慮している。拒否の時はタイミングを見たり、順番を変えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設定しておらず、ご利用者の時間に合わせ就寝していただいております。また、就寝時間前の環境には特に気を配り、安眠につなげられるような支援に努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報のファイルを作成し、職員は常に閲覧できるようにしております。また、薬剤に関する疑問があった場合は主治医・訪問看護師・薬剤師に連絡を取り指導をいただいております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の今までの生活に沿えるよう配慮し、趣味や役割等、楽しみのある生活の提供に努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的な買い物もご利用者と一緒に出掛けられるよう支援しております。外出先の希望にも応えられるよう努めております。	週1回、外出の日として機会を増やし、買い物や外食を楽しんでいる。行事計画を立て、農業園芸センターや笹かま館等に出かけている。家族の協力でお墓参りに出かける人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい為、現在、金銭管理されているご利用者はありません。ご自身の能力に応じ、買い物に行った時、職員と一緒に支払いができるよう支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話があった場合はご本人につなげ、大切な時間が確保できるよう努めております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には不快にならぬよう、刺激のないよう配慮しております。また、写真や創作物を展示することで思い出の共有ができるよう配慮しております。	共用空間は広々としており、一角の事務室からは全体が見渡せる。床暖房を使用し、加湿器や空気清浄機を設置している。トイレの表示を立体的にして、見やすいように工夫している。壁には季節の飾りや行事の写真を展示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中の居場所においては特に気を遣い、ご本人の暮らしやすい環境の整備に努めております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を置くことで安心感が持てるようご本人やご家族と相談しながら配置していただいております。	ベッド、洗面台、クローゼット、エアコンが備え付けられている。室内は綺麗に整頓され、壁には写真やカレンダー、園児からの贈り物が飾られている。表札は利用者に合わせて、高さや場所を変えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の意向に合わせ、ご自身の能力を活かせるよう表示や目印を設置し、安心・安全で居心地の良い居場所の提供を目指しております。		